

もし俺がS A Oにいたら

れぐるぐる

オリ主として自分がS A O世界に行っちゃいます

都合の悪いフラグはへし折っていくワイ、それに構わず無双しハーレムを築くキ
リト…

ある意味チートなふたりが織り成す原作崩壊はちやめちやS A Oライフ！

目次

ほんへのおまけ	1
甘くなりすぎた…（ほんへおまけ）	1
プロローグ	7
プロローグ	7
1章 妥当！居るファン愚雑魚ボルト労働	13
色々予想以上だった…	13
うるさすぎる門出	19
騒がしすぎるレベリング	25
中身が薄すぎる攻略会議	32

ほんへのおまけ

甘くなりすぎた…（ほんへおまけ）

み、皆さんこんにちわ…れぐるです…

最近艦これの方にお熱でしたのでこちらの更新を…

あの…原作大幅改変&艦これ以上の甘々、デレまくりキャラ崩壊不可避です…
ブラックコーヒーのご用意を…うっ…

で、では…どうぞ…

前回までの血筋…その血の記憶

ネンゲツヲメルゾ

…ギョッ！

内なる闘争心が燃え滾ったロリコンとスケベ

←

殺意を覚えるロリコンとスケベ

←

内なる本能が暴走し、萌え滾ったロリコン

ほんへ：のおまけ

れぐる「じゃあ、チーム「シリカちゃんを守り隊」、頑張るZ「一人でやってろロ

リコン」アロミィアベシ

！」

キリト「ったく：こんなやつ放っておいてつと：2人とも、いよいよボス戦だ。

このロリコンを反面教師にして、気を引き締めて勝とう。俺はパーティーメンバーを「死なせたりしない」：マジでいい加減にしろよ？」

れぐる「抑えて抑えて！お願いその殺気閉まって！言いたかったただだから！

ごめんね!!」

キリト「ったく：じゃあまず、いるファング雑魚ボルト労働についての：ん？

いるファング雑魚ボルト労働いるファング雑魚ボルト労働：おい筆者、変換がおかしいことn「おいバカメタ発言はやめろ！それもうn番煎じかわからんから！

」：言ってみただけですう」

れぐる「ちゃっかり真似すんなエロリト！」

エロリト「ああ……？ いるファンゲ雑魚ボルト労働を倒す前にお前の息の根を止めるぞロリる」

ロリる「おうおうおうおうおう……？ ここでやろうってのかキリノジ……」

キリノジ「そっちこそやろうってのか？ れぐる痔……地味に俺をdisるな！
傷つくから！ 豆腐メンタルにヒビg「本当に黙ってくれ」

れぐる「はあ？」「ジリジリ」

キリト「ああ？」「ジリジリ」

ヤンカコ/シジュンキアア

!?

ンダトコ/ヤロアア

!?

シリカ「なんていうかその……入る隙がないですね、アスナさん……」
アスナ「そ、そうね……なんだか悩んでいた自分が恥ずかしくなってきた……それよりシリカちゃん、一緒にお昼にしない？ サンドイッチ作ってきたの」

シリカ「いいんですか！？ ぜひぜひ！ ぜひそうしましょ」アスナの飯……だと……!?!
それもサンドイッチ……！」「ト。ッ」……えーと……キリトさん？」

キリト「アスナ！俺にも10個！くれ！」

アスナ「騒がしい人にあげるご飯はありません。あつそうだ。れぐるくんにもあげないから」

れぐる「そんなあ... そんなのってあんまりだぜ... 昼抜きは辛いなあ...」「あつあの、れぐるさん」... んー？どしたの大天Sゲフンゲフン、シリカちゃん」

シリカ「あの... 私、れぐるさんのためにご飯を作ってきたんですよ... そ、そのふたりに一緒に食べませんか...？...」

れぐる「君の臍臓をたべたい」

シリカ「もうっ... れぐるさんったら...」

れぐる「うへへへへWWWシリカちゃんかわゆすWWWつべえまじつべえ結婚しよ？」

キリト「... なんだあれ... はあ... アスナ「ね、ねえ、キリトくん... 私にはその... いて... くないの...？」カメカメ」... あのアスナさん？」

アスナ「キリトくん...」

キリト「あ、ああ... アスナ... その... 俺に毎日、味噌汁作ってくれ...」

アスナ「!!は、はい!不束者ですがその…よろしくお願いします!!!」

シリカ「れぐるさ〜ん!!!」

れぐる「あのー、シリカさん?ハラスメント警告がその…おーい?シリカさん??」

キリト「アスナ…」

アスナ「キリトくん…!!!」

ディアベル「君たち…あー…うーん…今日はやめとこう、うん。また後日作戦を…皆…?」

解放隊の皆さん「リア充は…しね!」

い…いかが…でしたか…?

艦これUA600…こちらのUA2000…マジ感謝です

あつ砂糖吐きそう…

次回まで…ばいちゃ〜…

6 甘くなりすぎた... (ほんへおまけ)

モチベに繋がるので…感想…を…
ザッ

プロローグ

プロローグ

みなさんこんにちは、れぐるです

活動報告にて色々話してるので前書きは長く書きません！

それでは本編をどうぞ！

「相変わらず：俺の部屋は殺風景なままだな」

つい俺は、俺以外誰もいない部屋で1人、ため息を交えながらそんなくだらな
い独り言をこぼしていた。

俺の名前は菊池蓮。都内の中学校で一般的な高校生活を送っている男子中学生
だ。

：正確にはもう男子中学生では無い：か。2年前の2022年、俺は、今では

日本を揺るがした過去の大事件となったSAO事件の生き残り《詳しく言うところSAOサバイバー》である。

高校受験を間近に控えていた俺は、内申、模試、偏差値のどれもが上々であり、また志望校は定員割れと、少し心に余裕が出来ている状態だったので、息抜き程度にならと、両親2人を説得し、SAOを入手することができ…後のSAO事件に巻き込まれることとなったのだ。

「今振り返ってみると、俺は貴重な経験ができたのかもしれない…全力で、そして命懸けで生きて生きて生きて…そして戦い続けて。何に対しても不信感を抱くだけだった俺には本当に刺激的だったな…言っちゃ悪いかもしれないが、茅場には本当に感謝しないとな…」

変わらず無音な空間で、変わらず俺は独り言を呟き続ける。

「でもな…またお前を被る時が来るかもしれないって心のどこかが考えちゃうんだよな…いや…来るかもしれないじゃなくて、来て欲しいが正解かもな…その時はまた、よろしく頼むぜ、相棒」

そして俺は、酷くボロボロになってしまったヘルメット型フルダイブマシン…

ナーヴギアに手を掛けた。

「んじゃ、そろそろ俺達の長く苦しかった冒険の話…始めようか」

今から俺が語るのは俺が経験し、感じてきたバーチャル世界の2年間の記憶である。

他愛ない話、二番煎じかもしれないが…あなた達の期待を削がないよう、精一杯努力していくことを誓おう。

それでは、昔話を始めていこうk

「ちょっとれぐるさん!?!さっきから何ボソボソ呟いてるんですか!早く開けてくださーい!デートの時間が無くなっちゃいますよ!?!」

…なんでこいつはいつもいつも…

「なんでお前うちにいるんだよ…あと俺はお前と付き合っていないしデートなんてしない。そんな約束もしてないし興味ないから回れ右して帰って、どうぞ。俺はたしかに低身長好きだけどな、お前みたいな幼児には興味が…」

「幼児じゃないですよ!しかも、年齢あんまり変わらないじゃないですか!駄々こねてないで、行きますよ!」

あれえ…聞く耳もってくれないなあ…ワイ、まじで困るンゴWWW」

「あの…れぐるさん、声に出ちゃってますよ…その癖と口癖、直したほうがいいと思います」

「お前みたいな幼児にとにかく言われたかない。とっとと帰れ！」

「嫌です！無理矢理にでも居座っちゃいますよ！今日こそはデートをしてもらいますからね！」

「嫌だ！俺はSAOで一生分働いたしリハビリで体力失った！ああもうダメだアおしまいだア…」

「ムカツク…そうですか分かりましたよ。それなら私にも手があります。おーい隣ちゃん」おつまそれは卑怯！はいはいわかったわかった！行く、行くから！」

「ふふ、話がわかる人は好きですよ？れぐるさん。それでは行きましょう！」

「へいへい…」

えー…おほん、というわけでSAO、振り返っていきますよ…

いかがでしたか？

ヒロインは原作にも出てきてるあの子です！予想できてる方はできてるのでは…？

それでは次回も気長に待っていただけると幸いです。それではまた！

1章 妥当!居るファン愚雑魚ボルト労働

色々予想以上だった…

みなさんこんにちは、れぐるです!

なんかモチベが湧き上がっててですね…早速一章第一話書いてしまいましたw
それでは本編どうぞ)

12年前ー

「よしっ…やっと手に入れたぞナーヴギア…!」

これで原作では死んだあいつを…はっ、いかんいかん。あつどうも、蓮です。

えーはい、皆さんなんとなく察してると思いますが、実は俺、この世界の住人じゃないんですね。起きたらここにいたって言うかなんて言うか…とりあえず、S A O やって見たかったんで買ってもらいました。いやホント苦戦した…受験許

すまじ。：俺の過去話はどうでもいいからはよ被れ？あっはいすいません。じゃあ待ちに待ったSAO、やっていくぜえ!!

「リンクツ：スタァ！お兄うっさい！黙れ！ぶっ飛ばすよ！」あっはい、すいません。リンクスタートー：」

燐ちゃん酷い：お兄ちゃんが何したって言うんだ：あっ待って2年閉じ込められるってことは燐ちゃんにしばらく会えなくなるってことkあっ待ってダイブするの待ってほんとに待ってあああああああああ

ーアインクラッド第1層はじまりの街ー

「あっ：着いちゃった：ここがアインクラッド：まるで現実だな：ああ：燐ちゃん：お兄ちゃん頑張って生きて帰るからね：2年待っててね：」

これは俺的にポイント高い：けど燐ちゃんと会えないのはポイント低い：気、気を引き締めてと：気分転換に早速シリカちゃんを：

「おーい！その黒髪の地味メンなお前ー！」

おいおい呼ばれてるぞ黒髪地味メンWWW典型的な陰キャじゃねえかよ誰だよそんなのW

ポンッ…ん？ポンッ？なんで俺肩叩かれたんだ「無視すんなよ釣れねえなあ…」

えっ…俺かよ… ってそこ！笑うんじゃねえええええええええええ！！

「えっ、あつ俺か。えーと、俺の名前はれん……れぐる……です、はい。えーと……よろしくな……?」

： そうですね俺、コミュ障でした☆

「れぐるってのか！　なんか女みてえな名前だなあ。俺の名前はクライン！　よろしくな！」

「あ、ああ、よろしくな」

「よし、じゃあレベリングに行こうぜ！あと一人誰か誘ってと…おつ、あそこのやつ、動きが違う…手練か！おーい！そこのお前！」

こいつこんなに陽キャだったのか……俺とは次元が違うじゃねえか……はあ……シリ
カちゃん……シリカちゃんはいねえかあ……

「おーいれぐるう！あと一人連れてきたぜ！」

「君がれぐるか：俺はキリトっていうんだ。よろしくな！」

「お、おう…よ、よろしくお願いします…」

な、生キリトじゃねえか…全然イキってないんですけど…○神とかいうやつ、間違ってるじゃないですかヤダー…

「じゃあ二人とも、軽く戦い方の練習をしておこうか」

「そうだな！よしやるぞれぐる！」

「えっ？あつ、おう、が…頑張るぞー」

なんか気が締まらねえ…こんなん生きて帰れるか俺エ…

ー10分後ー

「よし、2人とも、基礎は完璧だな！これからは1人でも狩りができるんじゃないか？」

「うおおお、キリトォ…！おめえマジで良い奴だなあ…！ホントにありがとな！」

「いやマジでありがとう。感謝してもしきれないわ」

「別にお礼はいいよ。俺は知ってることを教えただけだからさ…っとクライン、ピザの配達がもう来るんじゃないのか？」

「あつと… そうだった。じゃあ二人とも、また後で会おうな!」

あれ… これ確かログアウトできなくなるやつ…

「!? ログアウトボタンがねえ…!」

「なっ…!? そんなことが… ほんとにない… GMに連絡…」

「ええ… まじかよマスオ最低だな」

「れぐる、今はふざけてる場合じゃ…!」

『SAOプレイヤー諸君etc.』

みんなこれ聞き飽きたよね? とりあえずカットで… あつ待つてこれ俺わかる、俺わかるよ? ちょうどいいところだからって終わるやつだ。ほらフェードアウトしてッパル… ムッオイデイ… …ハンジダブデブデブデブ

はい、無理やりですが今回はここまで

次回はアナウンス後のやつですね。

… アナウンスをど忘れしたからってわけじゃないですよ? ホントに。ええホン

トに！

U A 4 0 0 越えありがとうございます！

感想等お待ちしておりますので、次回もよろしくお願いします！

ではばいちゃ〜

うるさすぎる門出

皆さんお久しぶりです、れぐるです

なんかUA800越えてましたね：読んでくれた皆さん、本当にありがとうございます！

今回は会話形式になりますが、最後まで読んでいただきます！
それではどうぞ！

前回までの牛スジ：じゃなくてあらすじ

SAOキター！

← 受験？ナニソレオイシイノ？

← シリカたん探してたらキリトとクライインいた

←

もう見慣れたし聞きなれたアナウンスきた

←

フェードアウトした

以上！

そして現在

れぐる「んで 2 人とも。これからどうするんだ？」

クライイン「おいおいコミュニケーション……れぐるさんよ、なんだそのメンタル。あんな意味わかんねえアナウンス聞いて平気ってまじかよ！」

キリト「本当にな……何か手馴れてる感じじゃないか。同じようなこと経験したことあるのか？」

れぐる「いやいやいやいや、そんなわけないじゃないですかヤダー。学校以外家に出ずに二一活してた俺だぞ？こんな経験が2度目であってたまるか（実際は読んだことがあるというか見たことがあるというか……なんて言えるわけねえよな）」

キリト「二一活って……ま、まあ経験がないことはわかった。疑ってごめんな。そ

れじゃあ2人とも、これからどうするんだ？」

クライン「俺はダチと落ち合う約束してんだ。だから2人とはここでお別れだな！」

れぐる「俺は…えーと…どっかの格安宿でそこら辺のモンスター狩りながら一生二ー活？」

キリト「OK。じゃあクライン、また会えたら会おう！それまで死ぬんじゃないぞ？」

クライン「あたばーよ！おめエも死ぬんじゃないぞキリト！あつあとれぐるも！」

キリト「ふっ…それじゃあ行くか！れぐる「おいおいおいおいちょっと待てよ、何で俺も行く事になってるの？俺引こもるって」なに言ってるんだ。レクチャーしてやっただろ？つまりそういうことだよ」

れぐる「キリト…お前は…お前だけは…死んでも許さねえぞちくしょオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

キリト「はいはい…それじゃあ行くぞ、れぐる。まずは適当にレベリングする

か！」

れぐる「んああああああ働きたくねえよオオオオオオオオオオオオ！ 燐ちゃんあああああん！ 燐ちゃんに会わせてよオオオオオオ！」

キリト「あーもううるさいぞれぐる。格安宿紹介してやるから着いてこい！」
れぐる「それまじ？ じゃあついてく」

キリト（こいつ…チョロいな）

おまけ

れぐる「今頃燐ちゃん何やってるのかなあ…会いたいたなあ」

キリト「なあれぐる、その燐ちゃんって誰なんだ？」

れぐる「ふっ…何を隠そう燐ちゃんは俺の世界で1番可愛い妹だ！」

キリト「あっそうですか。じゃあその妹に会うためにSAOをさっさとクリアしないとな！」

れぐる「そうだな…！ てかキリトには妹とかいないのか？（まあいるの知ってるんですけど）」

キリト「一応いるんだけどな…今の俺にあいつに会う資格は…あつごめん。今

のは忘れてくれ」

れぐる「そ、そうか。なんかごめんな」

キリト「い、いや。平気だよ、うん」

.....

れぐキリ「どうすんだよこの空気!!」

今日の！一方その頃燐ちゃんは…のコーナー！

「えっ？ お兄がSAOに捕われた？ ふーん、そっか。まあいいや。うるさい

やっぴいなくなったし。／＼。あ、友達だ。じゃあ遊びに行ってくる

ね、お母さん」

後にこの事を知つたれぐるは、一晩中部屋から出てこなかつたとかいないとか……

?

!

はい、久しぶりすぎて駄文量産しました…許してください、なんでもしますから

てなわけでここまで読んで下さりありがとうございます！
感想やご指摘、お気に入り等していただけたら幸いです！
それでは次回まで（いつか分らない）ばいちゃ〜

騒がしすぎるレベリング

皆さんこんにちは、れぐるです

モチベが有り余りすぎて今まで投稿出来てなかった分も投稿しちゃいました…
相変わらず駄文ですが、よろしくお願いします！

それではどうぞ！

前回までのおすし…じゃなくて牛スジ

アナウンスを無視するコミュ障

←

無視されるコミュ障

←

引きこもろうとするコミュ障

←

発狂するシスコン

←

金に釣られるシスコン

れぐる「なんで俺こんなに侮辱されてんだヨ

…アツマエトアツト

：

！ヤ、ヤメ …ヤメル …アツアツアツ ………」

ほんへ

あの後、無事に格安宿まで行くことができたから、その日はキリトと休むことにした。ちなみにベッドは同じ。腐女子の皆さんこちらへどうぞ。そして現在、SA Oに捕われて1週間が過ぎていた…

ウィイウィイウィイウィイっすどうもーれぐるでーす

今日はですねえ…フレンジーボア狩りをやっていこうと。ヒューン。ヒューン。

ン。ゴーン

…さすがイキリト先輩！やりますねえ！」

キリト「れぐる…心の声漏れてるぞ…変な妄想ばっかしてないでお前もレベリングしろよ」

れぐる「嫌だよそんなの…レベリングめんどくさいじゃんか…」

俺はほかの何よりも作業ゲーが嫌いなのだ。うんうん

キリト「確かに…でもレベリングしてたら、女の子にモテるかもしれないぞ？」

れぐる「ぐっ…確かに…ってかそんなこと考えながらレベリングしてたのかよエロリト。やっぱスケベだなあ…おおっと口が滑った」

キリト「おいなんだそのふざけたあだ名は！今すぐ撤回しろロリる！このロリコンでありながらシスコンでもある変態め！」

れぐる「うるせえ！俺は愚弄してもいいがロリを愚弄するな…！ぶっ飛ばすぞ！」

キリト「なんだと！?ぶっ飛ばすぞは俺のセリフだこのロリコン！ぶっ飛ばすぞ!？」

れぐる「ああ!？」

キリト「やるってのか!？このロリコンめ…！ならやろうじゃないか。後悔しても知らないからな？」

ああこれはデュエルする羽目になるやつ…ああもうどうにでもなれ…！

れぐる「ふっ…後悔するのはどっちだか…じゃあせーのでいくぞ…せーのっ」

キリれぐ「デュエルスタンバイ！」

戦闘中

れぐる「ふっ…元ベータテスターが聞いて呆れるぜ。MMORPG初心者のゲー

マーヒキニートの俺に剣を弾かれるなんて…悔しいかイキリトォ！」~~ぎぎぎ~~

~~ぎぎぎぎぎ~~

もう既にこいつの剣の使い方はアニメで何回も見た。剣の使い方上手になりたい

よね…男のロマンだよね…あっ今はお互い剣で~~ぎぎぎ~~してます（語彙

力）

キリト「誰がイキリトだ…だがれぐる…速さが足りないな…！もつとだ…もつ

と早く…！そこだ…！『レイジスパイク』!!」

なっ…！ここで突っ込んでくるかよ普通…！速すぎる…！だがこれくらい…こ

こだ！

れぐる「チィッ…！パリィ！…ふっ、隙だらけだぞキリトォ！『ホリゾンタ

ル・スクエア』!!」

キリト「なっ …!? なんでもうその技習得して…! パリィ…パリィ…パリィ…!そして最後…! なっ…残像!?」

れぐる「残念だったなキリトォ! ホリゾンタル・スクエアはラスイチが残像なんだよ…! おらァ!」

キリト「ぐっ …! 一撃入れられちゃったか…俺の負けだ。強くなったなれぐる…」

れぐる「ふっ … お前もなキリト… っておい待て… あっやりすぎたんじゃねこれ」
なんか俺とキリトの周りの木が全部切り倒されてるんですがそれは

キリト「あっ … 森が…」

宿主「おいおい騒がしい… なっ… お前ら…! どんだけ森を荒らしたら気が済むんだあああああああああ!」

れぐる「ワ、ワイはなんにも知らないンゴWWWおっと女の子が助けを呼んでる… 助けないかN「逃げるなよ? れぐる… 死ぬ時は… 一緒になって約束しただろ…?」嫌だあああああああああああああああああああ!」

その後、宿主にすげえ怒られました。ちなみにレベルが10ほど上がっていました。

ー現在のレベル 熟練度ー

れぐる 18 300 (剣を前に興奮し、素振りをしていたため熟練度はキリトより高い)

キリト 20 150

おまけ

少年2人、入浴中

れぐる「いやあ : 今日まで疲れたなキリト : おかげでレベルがめっちゃめっちゃ上がったわ : ありがとな」

キリト「いや、気にするなよ。俺もいい経験になったからな、デュエルなんて。ホント、お前というの楽しいな : 俺はずっとここにいてもいい気がするよ。お前はどうかんだ？ れぐる」

れぐる「俺か？ 俺はもちろん隣ちゃんに会うためにもはやくクリアしたいな！ 「言うと思った : そこは冗談でも」だけだな : お前というのもすげえ楽しいん

だキリト…だから…」

キリト「なっ…なんだよ改まって…」

れぐる「今夜は…寝かさないぜ☆」

その後夜更かしして男子会（参加者2人）した

いかがでしたか？

感想やご指摘（etc）よろしくお願いします！

それではまた次回まで！

ばいちゃ〜

中身が薄すぎる攻略会議

皆さんこんにちこんばんおはしゃつす、れぐるです

U A 1 5 0 0 →、ほんとにありがとうございます！モチベが少しだけ増えました！

まあ長話はしたくないのでこの辺で。それではどうぞ！

前回のカカシ…じゃなくて A ・ R A ・ S H I

エフエフエフエフエフエフエフエフ

おい…デュエルしろよ

←

ホモ営業

←

おわり

本編はいる前の挨拶（?）

最近の悩みはデュエルによる筋肉痛。どうも、れぐるです。SAOが始まって1ヶ月が経ちました…：そういうえば最近、無茶苦茶なデュエル（ついでにレベリング）をキリトとやるのが日課になってしまい、気づけばレベルが20をとくに越してしまいました…：ちなみに第1層の適正レベルは11らしいです…

こりゃあ最前線は俺ら2人が走っていると云っても過言ではないンゴWWW」
キリト「お前…：また声に出てるぞ？」

れぐる「ええ…：（困惑）この癖治る気がしないんですがそれは」
キリト「気合いで直せ」

れぐる「ああもう無茶苦茶だよ…：あつ、本編どうぞ」

キリト「おい、さすがに唐突すぎるぞ！なんなんダオエイ…：ツオレエフ

ートアクトカヨ…：コネタキタ…：アアアアア…：三三」

ほんへ

例の格安宿の一室

れぐる「なあキリト、今日から本格的に第1層攻略ってまじ？」

キリト「らしいな……攻略会議も開かれるみたいだな。話だけでも聞いていくか？」

れぐる「そうするかあ……確か転移門前の広場でやるんだっけか？ んじゃ早速準備していくか」

キリト「そうだな」

転移門前の広場

キリト「ここか……じゃあ適当な場所に座るか」

れぐる「そうだな……じゃあ俺は誰もいなさそうなので1番端っこ」何言ってるか聞こえないだろ難聴コミュ障ロリコンニート」やかましいわ！ このスケベ！ エロリト！」

エロリト「なんだと……？ またボコられたいようだなロリる……」

ロリる「ああ……？ 分かってんのか……？ 今のところ俺らは49勝49敗1引き分け……これで全てが決まる……この言葉の重みが」

エロリト「ふっ……今がその決着の時……ってわけだ。わかってるさ、その言葉の重みなんて」

ロリる「油断してるとその出鼻…へし折ってやるZ「さっきからなんやあんたら、ガキはそこら辺走り回っつけ、攻略会議にはいらんわ」…あ?」

エロリト「あんた…何様だ? 攻略会議はまだ始まらないはずだろ? なら余っている時間で茶番させてくれないじゃないか…「茶番って言っちゃったよこのスケベ!」お前は黙っつけ!」

??? 「ワイはキバオウっちゅうもんや。「名乗れって言ってないだろ関西弁」なんやと!?! ガキのくせに調子に…!」

エロリト「お前、今のレベルはいくつだ?」

キバオウ「レベルやと…? 今は10や…それがどうだっていうんや!」

エロリト「そうか…なあ、第1層の適正レベルがいくつか知ってるか?」

キバオウ「そんなん知っとるわ、レベル11やろ? 1足りないくらいどうってこと…「そんなに余裕越えてるとお前、死ぬぞ?」…なんやガキ、さっきから偉そうに…! じゃあお前のレベルはなんなんや!?!」

エロリト「俺か? 俺はレベル22だ。ちなみにここの変態は20だ」

ロリる「変態とはなんだ変態とは! このスケベ!…まあそういうことだよおじ

さん。ここはこの俺様に任せてくれよ！余裕のよっちゃんイカだからな！」

エロリト「お前が 1 番慢心してるんじゃないか……？」

キバオウ「な……な……」

ロリる「ふはははは！慢心せずして何が王か！貴様らは俺の足元にも及ばないのだよ、雑種！」

エロリト「お前ってやつは……」

キバオウ「なんなんやあんたらは！なんでそんなにレベルが上がるんや！チートでも使ったんか!?通報したr「まあまあ落ち着いて、キバオウさん」……ディアベルはん……」

ディアベル「はいじゃあそこの 2 人も！あんまり怒らないでくれ、キバオウさんは悪気があつて言ったわけじゃないと思うんだ。じゃあさっさと攻略会議を始めようか！」

キリト「……仕方ない、大人しく話を聞か、れぐる。……れぐる？」

れぐる「えっえっえっこんなにあんな目立った行動を……バカか俺死ぬのか」

あああああ…」

キリト「相変わらずだな…まあとりあえず聞いとう、な？れぐる」

れぐる「そ、そうだな…じゃテキトーにチーム決めまでカットで」

キリト「カット…？お前、髪でもせん k…」

ディアベル「ザザザナナ…」

チーム決め

れぐる「んで、案の定あぶれると」

キリト「予想してたのかよ…ん？あの二人組も溢れてるな…ちよつと声かけてみるか」

れぐる「ええ…ホントにできるのか？スケベ。まあ頼んだ」

キリト「お前マジで1回切り刻ませてくれ」

「キリトナンパ中」

キリト「と、いうわけで、同じパーティーになってもらうことになった。これからよろしくな」

「…ええ、よろしく」

「はい！よろしくお願いします！」

れぐる（ん…？確か原作では1人だけ溢れてたはずだが…まあそのひとは間違いないあのフードを深くかぶってるアスナなんだが…あと1人の子は…子は…まさか…！）

キリト「おいれぐる、自己紹介。自己紹介はよ」

れぐる「あ、ああ…え、えーと俺のなななななままままえはれぐるる。ああああええええええとあああああああ」^{ゴゴ}—

れぐる（やべえ、これ下手したら生…うあ…）

キリト「…は？いやちょっと」大丈夫ですか！？」ほんとそれ。まあほつってやれ。あっそうだ君の名前は？」

れぐる（そう…君の名前は…？」

「あつ！えーと、私の名前はシリカです！よろしくお願いします！」
れぐる「あああああああああああああああああああああああああああ！

「デェッ—く！

シリカ「ええ！？れぐるさん！？」

キリト「爆発オチなんてサイテー（棒）」
フードさん「私もう帰っていいかな」

いかがでしたか？

感想etcよろしくお願いします！
それではまた次回まで！ばいちゃ〜

もし俺がS A Oにいたら

著者 れぐるぐる

発行日 2022 年 9 月 14 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-
<https://syosetu.org/novel/179236/>

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。
